園だより

文京区立第一幼稚園
令和元年度２月号

楽しい思いを大切に

副園長　　前田　宏子

今年の冬は暖冬と言われましたが、大寒を過ぎたころから、「寒いね」という言葉を交わすことが増えたように思います。しかし、子供たちは元気に園庭や屋上で体をいっぱいに動かして遊んでいます。ちょっとした陽だまりがあると、なんとなく子供たちが集まってきて、日向ぼっこをしている赤組の子供たちをよく見ます。どこに行くと、どんなことができるかをこの一年で分かってきたのだと思います。

今年度も残すところ二か月となりました。今月は各学年が日にちを分けて、こども劇場を行います。劇や合奏をその学年の発達にあったやり方で楽しみ、その姿を保護者の方に見ていただきたいと思います。

まず、最初にこども劇場を行うのは年長組です。年長組は新学期早々にこども劇場に向かって準備を始めました。年末から少しずつ、話し合いを進めていましたが、年が明けてから役を決めたり、小道具・大道具を作ったりして本格的に劇の準備が始まりました。年長組は各学級とも子供たちの好きな絵本をベースとして、劇を作っています。どんな役をやりたいか、どんなストーリーで進めていくかを皆で話し合い、そのクラスオリジナルの劇になっています。役ごとに衣装を考えたり、大道具を作ったりするのも子供たちです。教師と相談しながら、「こんな風にしたい」という思いを実現できる方法を考えていきます。自分が思い描いていたように進まないこともありますが、友達と意見を出し合って進めていく楽しさを感じています。やっていくうちに、「こうした方がいいと思う」「その考え、いいね」などのやりとりをしながら進めています。

自分で作った衣装を身に着け、役になりきって動き出していくと、どんなセリフを言ったらいいかを考えていきます。「この場面ではどんな気持ちだろうね」と教師が聞いていくと、「〇〇って思っているんじゃない」「僕は〇〇って思うよ」など、役になりきって考えています。その思いをつなげて劇が出来上がっていきます。このプロセスは大変なことですが、決められた言葉を言うことではなく、自分が考えた言葉を言うことを大切にしています。「何か歌がもう一つ入るといいと思うよ」と投げ掛けると、「こんな歌はどう？」「あの体操がいいよ」とどんどんいいアイデアが出てきて、成長を感じました。

保護者の方も国語の時間に教科書を見ながら、「この主人公はどう思っていますか」などの授業を受けたことがあるのではないでしょうか。幼稚園では実際に自分が役に成りきりながら「ここではどう思うか」と考えていきます。幼稚園でこのような経験を積み重ねいくことが、小学校での学習のベースになっていくと思います。

このプロセスを踏めるようになるには、年少、年中組の時の経験の積み重ねが必要です。各学年がその時期に合った劇遊びをすることで子供たちは楽しさを感じ、「もっとやりたい」「今度はこんな風にしたい」など、次につながる意欲が出てきます。

～小学校の校長先生が「小学校に入ってからの学習や生活に最も影響をするのは幼児に遊びこんだ経験が大切」とお話をされています。友達と一緒に遊び込んだ経験がないとか、泥んこになった経験がないなどの経験不足が学校に入ってからの学びに大きく影響をすると言われています。～（幼児教育じほう 2019.12 月号より）

幼児期は子供自身が「おもしろい」「楽しい」と感じることが大きな原動力になり、たくさんの遊びを生み出していきます。与えられたことをすることだけではなく、自分から「やってみたい」と感じる心を大切にしていきたいと思います。「やってみたい」と思う最初のきっかけやそのことを楽しむプロセスを大切にします。幼児期の遊びは結果として表れるものは少ないですが、「おもしろい」「楽しい」という思いが最後に残るような遊びをしていけるようにしたいと思います。